



STEP WORLD[®] TIMES

April 2012 No. 72

発行者
一般財団法人 日本ラーニング・ラボラトリー教育センター
東京都新宿区横寺町55 ☎ 03-3266-6251

<http://www.step-w.com>

2012.3.19(月) ~ LL 西之布

「英語を教えるのではなく、ことばの指導を！」①

～「態度」を育成する～ 東洋学園大学教授 日本LL教育センター評議員 黄金井健夫

「英語を教えるのではなく、ことばの指導を！」これはSTEP WORLD英語スクールの指導理念の一つです。英語教室で「英語を教えるな!」とは違和感を抱かれることでしょうか。私たちはなぜ子どもたちに英語を学習させるのでしょうか。今回はこの問題について考えてみましょう。

「私たちはなぜ言葉話すのか?」

この質問をSTEP WORLD英語スクールの講師研修会や大学の授業で質問をすると様々な答えが返ってきます。「人と話をしたいから」、「なぜ人と話をしたいのか?」「楽しいから」、「楽しい時ばかりではないよね?」「一人じゃ生きられないから」、「本当に一人じゃ生きていけない?」「...」、だんだんと答えに窮してきます。

しかし、彼らの答えはほとんどが正しいです。「人は他の人と言葉を交わすことにより自分の存在を確認できるから。相手との言葉のやり取り(コミュニケーション)により自分は生きているということを確認できるから」というのが私の答えです。挨拶した時に返事が無く、無視された時、これほど寂しく悲しいことはありません。自分の存在を相手が認めてくれているのです。ここで大切なことは「挨拶をする」という行為ができるかどうかです。「おはよう」、「こんにちは」という言葉は誰でも知っています。誰でも言うことができます。英語も同じです。いくら英語ができて「おはよう」という言葉を発しようとする気持ちがなければ、また伝える内容(メッセージ)がなければ、それは試験のための英語学習であり、決して「ことば」としての英語学習ではありません。

外国語教育では何を指導すべきか?

D.K.バーローは「送り手」と「受け手」のコミュニケーションがスムーズにおこなわれるには、1) 技能、2) 知識、3) 態度(好意的・受容的態度)、4) 社会的文化的脈絡(異文化理解)の4つの要因が重要であると言っています。これを英語教育の立場から考えてみると、従来から「技能」(4技能:聞く、話す、読む、書く)と「知識」(文法知識、一般常識)の指導が英語学習の中心としておこなわれています。しかし、コンピュータ等の機器が日々発達している現在、それらが全てこれらを補ってくれる時代が来ます。

そのような時代になった時、外国語教育では何を指導すべきなのでしょう。STEP WORLD英語スクールでは「技能」、「知識」の他に「態度」の育成が重要と考えています。「態度(好意的・受容的態度)」とは相手を好きか

どうか、相手を受け入れることができるかどうかです。「好意的・受容的態度」を育成することにより、相手のことをもっと知りたい、自分のことをもっと知って欲しいと感じます。その相手とのコミュニケーションを図る時に「ことば」が生まれるのです。

STEP WORLDの目指すコミュニケーション能力とは

好意的・受容的態度→他を思いやる心の育成
→差別、偏見を持たない→国際化

STEP WORLD英語スクールでは講師自身がまず生徒たちに好意的・受容的態度で接し、ことばをかけるようにしています。その際に使用することばが「英語」なのです。本来、人と人とのコミュニケーションに意味不明で相手に伝わらないということはありえません。伝わらないのは送り手と受け手のどちらか、又は双方の「技能」、「知識」等が劣っているためです。一般的には子どもたちより私たち大人のほうが経験的にも勝っています。「相手の言っていることが理解できない」と切り捨ててしまうのではなく、「なぜ、このようなことを言っているのか」それを推理、推測し理解しようとする努力が大切です。そして、そこにまた「ことば」が必要になってきます。その努力を行わせるのが「好意的・受容的態度」なのです。

「態度」の育成には感性が必要です。感じる心が無ければ「ことば」は生まれません。「感じる心」があるから言葉が生まれ、それを相手に伝えたいと思うのです。また、真の国際人を育てるためにもこの「態度」の育成が大切です。単に外国語ができることが国際人ではありません。「相手を受け入れる心」を育成し、肌の色や、外見等で人を差別しないことが真の「国際人」ではないでしょうか。

これがSTEP WORLD英語スクールが目指している児童英語教育であり、コミュニケーション能力の育成なのです。次回は「ことばの指導」のもう一つの重要な要素である「自分のメッセージを発信できる指導」、「考える力をつける指導」について考えていく予定です。

